



PRESS RELEASE

平成24年 2月16日
岡山大学

ミャンマー医療支援活動、新たなる展開

＜概要＞ミャンマー保健省と岡山大学は、学生研究者の交流に関する大学間協定を結んでいます。そして、発展途上国の医療に役立つ研究指導を、毎年、研修生の受け入れやミャンマー現地で行ってきました。一方、各臨床講座による最先端医療の紹介や、形成外科医師による現地での手術支援が2010年から開始され、これまで140人以上の手術を行ってきました。今後は、現地の患者さんを治療するだけでなく、民主化を進めているミャンマー医療を発展させるために、現地の医師を教育する施設、すなわち臨床アカデミー設立に向けての活動を展開していく予定です。

- 1) ミャンマーに臨床アカデミーを設立し、ミャンマーでの自己発展型教育システムを構築する。
- 2) 臨床系医師を派遣し、医療協力活動のみならず現地医師の養成を行う。

ミャンマーは世界の最貧国のひとつで、医療関係の立ち遅れは顕著です。岡山大学名誉教授岡田茂により2002年に岡山大学とミャンマー保健省医学研究局・医科学局の間で大学間協定が結ばれました。この協定により、交流が軍政下においても滞りなく進められ、基礎医学や臨床医学講座に多くの留学生が訪れ、現地での医療に貢献し始めています。また、2010年1月からは形成外科医師を中心に、実際の手術支援が始まりました。過去4回の活動により約140人以上の現地の患者さんを治療し、昨年12月からはミャンマーの医師を岡山大学で受け入れ手術指導を行っています。これらの活動資金は、NPO法人日本・ミャンマー医療人育成支援協会並びに、岡山大学学長裁量経費からの支援を受けております。大学協定10周年を迎える今年は、ミャンマーの保健省大臣と岡山大学森田潔学長の相互訪問も計画されております。さらに今後は、岡山大学から臨床系医師を派遣し、現地の医師を臨床や研究面で教育できるアカデミー設立を計画し、現地の医師達自身が臨床セミナーや学術集会などの運営を含めた教育システムを構築できるような活動を展開していく予定です。



熱傷や顔の奇形などの多くの患者が未治療のままている。下の写真は実際の現地での手術

＜お問い合わせ＞

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科

形成再建外科 木股敬裕

(電話) 086-235-7214 (FAX) 086-235-7210